

＜ もくじ ＞	
1. 2023年度連続講座第4回の結果報告	1
2. 第8回研究会合同イベント開催予告	2
3. 研究会からのお知らせ	2
4. 研究会からの概要報告	3
5. 事務局からのお知らせとお願い	6

1. 2023年度連続講座「長寿時代を生き抜く知恵 Part 2」第4回 (12/9) の結果報告

■ 第4回のテーマ：「老若定めなく寿命こそ計りがたし～人生を走り抜けようとしている者の感慨」

- 1) 日 時：12月9日（土）14：00～16：00
- 2) 講 師：濱口 晴彦（シニア社会学会副会長 早稲田大学名誉教授）
安田 和紘（シニア社会学会理事 元目白大学教授）
碓 正義（シニア社会学会会員）
大下 勝巳（シニア社会学会会員）
- 3) 会 場：東京家政学院大学 1602教室
- 4) 参加人数：会場18名、オンライン10名
(会員19名、非会員9名)

＜概要報告＞

濱口研究会では十数年来シニアの自立と共生の社会学を学び、成果の一端を『私たちのシニアライフ』の題目で冊子にまとめました。高齢期をどう生きているか、生きたいのかというリアルな報告です。報告の中にシニアが生きぬく知恵が凝縮しており、それらを紐解き論点を展開致しました。シニアの知恵は属人的で、暗黙知。今回は幅広く共有できるよい機会となりました。



全体の構成は安田による概要説明、碓会員、大下会員による体験談、質疑応答を経て濱口座長による総括となっています。

シニアは口には出さずとも、生きる目標を心に秘めています。「長寿で、惚けないように」、「好きなことを存分にしたい」、「今の時間を大切に」等。老後の幸せな生き方を考えるヒントは先行研究に見出すことができます。ヒントの一つは、「自分らしさ」と「利他性」のバランスが老後を幸せに導くということ。

シニアは加齢により心身の衰退、能力の低下や孤独、健康や経済的な不安、人間関係のトラブルなどいくつもの困難に直面します。しかしシニアを画一的に弱者と決めつけるのは問題で、個人差はあるものの豊富な経験や技能を持ち、意欲を備えた人も多いと気づくべきです。シニアが社会参加をすることで活気ある日本を促すことができます。

報告書にある11人の生き方を5つの類型に整理してみました。生き方は多様、「みんな違って、みんないい」です。それぞれが自立し、学び直し、利他主義に徹し、よき祖先になるよう心がけ、人とつなが



り、老化を受容して自然体なのです。



碓会員、大下会員は自らの体験を熱く語りました。傾聴の大事さ、楽しむことは自分だけの事ではないこと。また、社会の成り立ちや仕組みについて具体的で核心を突いたメッセージでした。濱口座長からは、執筆者4人を取り上げ、その人ならではの活躍した舞台が紹介されました。また漫画『フジ三太郎』に触れ、一コマ毎に戦後世代のライフサイクルと時代背景が映し出されて、4コマの次には、自然と自分と重ねて高齢期の生き方に思いを巡らして感慨深い等人生の軌跡について含蓄に富んだ総括でした。

(安田和紘 記)

以下、参加者アンケートからの回答の一部をご紹介します。

- * 事例から読み取る「みんなちがっていい」の5つのポイント、18歳と81歳、大下さまの会社人間からの変革のお話、濱口先生の4コマ漫画の内容、袖井先生のシニア社会学会の設立の経緯など、どれも興味深く伺いました。報告書を拝読したいと思いました。話題にしにくいことが、専門性と科学的裏付けで説明されて、抵抗なく聞くことができました。(非会員 60歳代 女性)
- * 非常に厳しい時代になったので、「高齢者」「シニア」どちらも、これからの人生に真剣に取り組まなければならないと思います。(会員80歳代、男性)
- * 高齢期の3大問題は、健康、経済、人間関係である中で、私はこの中で「人間関係」ではないかと思えます…。(会員80歳代、男性)
- * 何回か参加していて、毎回気づきがあるのですが、一方気になる点があります。アクティブな高齢者が登場することが多いですが、定年後に居場所がなくて1日中新聞を取り合いながら図書館で過ごす、それならまだよいが、自宅に引きこもりなど、全くアクティブでない高齢者が数多いのではないのでしょうか？そのような方々について、シニア社会学会としてはどう感じているのでしょうか？働きかけてもどうせ反応してくれないのではないのでしょうか、ということですかね。(非会員 70歳代、男性)

2. 第8回研究会合同イベント開催告知

第8回の研究会合同イベントは、社会情報研究会が担当します。誰もが情報通信機器を使いこなし、サービスを楽しむことができるデジタル・リテラシーの向上のための支援策と課題について、若年世代・シニア世代からの意見をもとに考えます。

開催要領は下のとおりとなりますが、参加申込方法や案内チラシは年明けにご案内する予定です。

- 1) 日 時：2024年3月16日(土) 14:00~16:00
- 2) 場 所：ちよだプラットフォームスクウェア5階会議室 ※ハイブリッド開催
- 3) 参加費：1,000円 (Peatix/会場にて支払い)
- 4) プログラム
 - 第一部：基調講演
八巻睦子(当会運営委員、ユニアデックス株式会社未来サービス研究所)
 - 第二部：パネルディスカッション
千葉商科大学「よろず隊」
田口登 (NALC市川)
安田和紘 (当会理事・運営委員、あざみ野団地)

3. 研究会からのお知らせ

(1) 第48回「社会情報」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2024年1月17日(水) 15:00~17:00
- 2) 場 所：ちよだプラットフォームスクウェア504会議室
- 3) 概 要：当研究会が担当する合同イベント会場の下見と機器構成の検討

※参加ご希望の場合は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください

(2) 第40回「YNSやまぶき任意サポート会」開催のお知らせ

- 1) 日 時：2024年1月27日（土） 18：30～20：00
- 2) 場 所：品川区東大井5-18-1 キュリアン 第一グループ活動室
- 3) テーマ：認知症とともに生きる
- 4) 劇団 「B症座」手作りの人形、寸劇

(3) 第49回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2024年2月23日（金） 17：30～19：30
- 2) 場 所：ZOOMで開催予定
- 3) テーマ：認知症について
- 4) ファシリテーター：長谷川洋さん（埼玉県健康管理士）

※2024年1月の月例会は休会いたします。新年より研究会活動に参加されたい方、まずは当研究会でご自身の想いをアウトプットしてみませんか。皆さまのご参加お待ちしております。
ご連絡ご質問は、中村昌子（nakamurayoshiko6@gmail.com）までお願いします。

4. 研究会からの概要報告

(1) 第92回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

- 1) 日 時：2023年11月16日（木） 15：00～17：20
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室
- 3) テーマ：①研究会報告書『私たちのシニアライフ』の配布後の活用について
②濱口晴彦座長の卒寿祝い準備について
③2023年度シニア社会連続講座第4回「老若定めなく寿命こそ計りがたし」
発表内容の検討

<テーマ別の報告>

- ①研究会報告書『私たちのシニアライフ』の配布後の活用について
 - ・150部作成、執筆会員に100部配布、手許に50部。理事・運営委員向けに30部、連続講座参加者で希望者向け販売（単価200円）に20部を見込む。
 - ・今後の活用については、会員各自がそれぞれに計画・進行中である。
 - ・濱口晴彦座長の卒寿祝い準備について、幹事役が全員欠席につき討議せず、持ち越し。森嶋会員に幹事役への参加を事前に口頭で依頼し了承を得た。
- ②連続講座第4回「老若定めなく寿命こそ計りがたし」発表内容の検討
 - ・発表内容案……安田が作成した資料をもとに、発表の基本方針と内容案を説明し討議。
 - ・出席者からの質疑・意見交換により、当日の発表イメージが明確化した。当日の発表資料も加筆・修正。
 - ・碓会員、大下会員、森嶋会員（交渉中）も登壇・発表に加わることが新たに了承された。
- ③連続講座プログラム案ならびに準備及び当日の段取りを検討。
 - ・パワーポイントで作成した資料に基づき安田が説明（約50分の予定）。
 - ・碓会員・大下会員の意見発表、森嶋会員が次世代を代表して（交渉中）コメント（各5分程度計15～20分）。
 - ・安田がパワーポイントで担当部分（注：碓・大下意見発表部分も付加予定）の資料作成。
(安田和紘 記)

(2) 第155回「社会保障」研究会報告要旨

- 1) 日 時：2023年11月22日（水） 18：00～20：15（オンライン開催）
- 2) 報告者：別府志海（国立社会保障・人口問題研究所）

3) テーマ：『日本の将来推計人口（令和5年推計）』について

4) 参加人数：21名

本年4月26日に国立社会保障・人口問題研究所から公表された「日本の将来推計人口（令和5年推計）」について、(1) 推計手法と仮定設定、(2) 推計結果の概要、の2部構成で報告が行われた。なお、報告者は同研究所における当該推計プロジェクトのメンバーである。

報告は特に(1)の、本推計の考え方や仮定値の設定方法などについて重点的に行われた。はじめに、本推計の性格として公的推計であるために中立性・客観性を必要とすること、そのために推計は過去の傾向を将来に投影する人口投影という考え方を採用していることを述べた。その上で、本推計ではコーホート要因法を用いることから基準人口のほか人口変動要因として出生、死亡、国際人口移動の仮定値が必要となることを説明し、各仮定値の設定方法について、やや詳細な説明を行った。具体的には、出生では仮定設定はコーホートを対象に、夫婦の出生行動を出生順位別に設定しつつ結婚の影響を加味し、さらに今回は令和婚・コロナ禍の影響による有効リスク人口の減少を考慮している。死亡では世界的にも長寿化が進んでいる日本の状況からモデルに日本独自の改良を施す工夫を行っている。国際人口移動では、外国人は入国超過数、日本人は入国超過率を仮定し、また日本人との国籍異動を考慮している。

次に、こうした仮定設定に基づいて算定された将来推計人口について、今後の人口減少、高齢化の進展についてなど結果の概要を報告した。また今回の推計では、2070年までを投影した本体部分となる「基本推計」のほか、一定の条件によりさらに50年間を推計した「長期参考推計」、仮定値を機械的に上下させることにより人口への影響を分析するための「条件付き推計」、また各推計結果における日本人人口を扱った「日本人人口参考推計」があることを紹介し、その結果概要をお示しした。

なお、将来推計に用いられた各種仮定値ならびに推計結果等の情報は、同研究所のホームページ上にて公開されている。ご活用頂ければ幸いです。

報告の後は、外国人による出生への影響、国際人口移動の相手国などの考え方、人口部会での様子などについて、活発な意見交換が行われた。

付記) 本報告は、第23回社会保障審議会人口部会（令和5年4月26日開催）において報告された内容をもとに一部修正して行われた。 (別府志海 記)

(3) 第48回「ライフプロデュース」研究会の報告

1) 日 時：2023年11月24日（金） 17:30~19:30 Zoom 開催

2) 報告者：柴本淑子（編集者&ライター）

3) タイトル：「戦争中、本当にあった人造石油プロジェクト」

人造石油とは何か

昭和10年代、戦争にひた走る日本では石油不足を補うため、1つの大プロジェクトが始まっていた。それは石炭から石油を造り出すというもの。当時、ドイツでは人造石油の開発に成功し、日本もその技術を使って人造石油の開発に乗り出したのだ。そのため遥々ドイツから技術者を招き、北海道の滝川に当時東洋一ともいわれた従業員2000人を擁する大化学工場を建てた。しかし、ようやく石油の量産が始まったのはすでに開戦から1年後。石油のオクタン価は低く、飛行機を飛ばすことはできなかった。

ドイツ人技師と日本人女性との恋

プロジェクトと並行して、来日したドイツ人技師の1人と地元の日本人女性の間には恋が芽生え、女性は昭和17年に娘を出産した。技師は戦局が厳しくなった昭和20年に離日。離ればなれになってから母娘は貧乏のどん底に陥り辛酸をなめてきたが、技師の消息はわからないまま時が過ぎた。柴本はすでに老齢に達したその娘に取材をし、一連のプロジェクトや男女2人の物語を初めて深く知ることができた。

参加者の感想

- ・戦争はいけない。戦争さえなければ、こんな悲劇は起きなかった。

- ・石炭から石油を造るといふ、今では奇想天外に思われるプロジェクトに莫大な資金と人を投じるなんて、戦争は判断を誤らせる。しかし、当時の社会情勢では仕方がなかったことなのかもしれない。
- ・その気になれば、ドイツ人技師は母娘を捜すことができたはず。それをしなかったのは無責任ではないか。よほどの理由があったのだろうか。

(4) 第38回「YNSやまぶき任意サポート会」の報告

- 1) 日 時：2023年11月25日(土) 18:30~20:00
- 2) 場 所：品川区東大井5-18-1 キュリアン 第一グループ活動室
- 3) テーマ：認知症とともに生きる) 劇団 「B症座」手作りの人形、寸劇

概要

YNS やまぶき任意後見サポート会は、人々の尊厳を尊重し、住み慣れた地域の中で安心して共に暮らせる社会の実現を目指している任意の集まりの会です。団扇で作った手作りの人形を使ってわかりやすいPR活動をしています。

認知症等の有無にかかわらず、誰もが尊厳を持って暮らせる社会を目指しています。人口減少などの社会の様々な変化は「社会の構成員が、全体最適を意識しないと、全体の幸福度が落ちる時代」になっていることを示唆していると考えます。

大企業の効率性が商店街を押し潰してしまったように、昔ながらの商店街を維持していくことはもはや通用しないことに気づかなくてはなりません。地域を含めたサプライチェーンのあり方を改めて考えていく必要があります。そこで本会は認知症を含めた地域の方がたが安心して暮らせる社会のあり方を提案していきます。

内容

意思決定能力を評価する場合の難しさが問われます。精神的能力法は「人は意思決定をするのを助けるすべての実行可能な措置がとられたが成功しなかった場合を除き、意思決定をすることができないと扱われてはならない」(第1条第3項)

ある特定の行動方針が障害者の最善の利益であるか否かを決定する者は「合理的に実行可能である限り、本人が本人に代わって行われるあらゆる行為及び本人に影響を与えるあらゆる決定に、できる限り完全に参加し又は参加するために必要な能力を向上させるのを許可し、かつ、奨励しなければならない」(第4条第4項)

任意後見制度、法定後見制度、信託、遺言などを理解しながら最善の選択を意思決定していく必要があります。私たちは、出来る限りわかり易く情報提供させていただきます。(鈴木 真澄)

(5) 第47回「社会情報」研究会の報告

- 1) 日 時：2023年12月13日(水) 15:00~17:00
- 2) 場 所：Zoom 開催
- 3) テーマ：当研究会が担当する研究会合同イベントのスケジュール確認と機器構成の検討

4) 概要

①スケジュールの確認(森)

- ・現在進行しているのは、チラシ原稿の依頼(担当松島、12月13日締め切り)
- ・12月発行のJAASNewsに予告の記事を掲載予定

②チラシ用原稿とレジュメ用原稿の依頼について(松島)

- ・チラシ原稿の依頼(12月13日締め切り)
- ・レジュメ(2024年2月20日締め切り)

③機器構成(富田)

- ・会場変更に伴い、機器構成を新たに検討する必要が生じた
- ・富田提示の基本方針について、過去の経験を踏まえて、スクリーンへの表示、会場音声の課題、複数カメラ、司会者の位置等 議論
- ・CPS ビジネスセンターが提供するサービス(スイッチャーセット)を借りることも選択肢の一

- つ。サービス内容について詳しく問い合わせる
- ④次回研究会は合同イベント会場の下見を兼ねる
- ・持参できる人は、ノートPCを持参
 - ・音声について、重点的に現場で検討する

(森 記)

5. 事務局からのお知らせとお願い

<会員情報変更時のご連絡のお願い>

事務所移転後は、各種ご連絡をeメールや郵送で行うことが多くなっております。会員情報（氏名・住所・メールアドレス等）に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。なお、電話による連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あて連絡は、eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp 又は郵送いずれかの方法にてお知らせください。

<事務局業務は、12月25日（月）～1月8日（月）まで休業します>

<2024年1月JAAS Newsの発行日>

次回JAAS News 第293号の発行日は、2024年1月24日（水）です。原稿をお寄せ下さる方は、1月17日（金）までに、学会宛のeメール添付にてお願いいたします。

シニア社会学会 事務局一同

一般社団法人 シニア社会学会・事務局
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21
ちよだプラットフォームスクウェア1037
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：<http://www.jaas.jp/>